

2014年3月23日 「過渡期」の川を渡る

聖書箇所：ヨシュア記1:1-9
ブライアン・ブルエット牧師

導入

今日のメッセージは、私たちが今置かれた過渡期にうまく対処していけるようにと準備しました。人はあらゆる過渡期を迎えます。大学進学、結婚、出産などがあります。これらは私たち個人の人生に起こる変化です。ここOICで教会として迎える過渡期は、ここに挙げたものとは少し違います。ダン・エルリック牧師が辞任され、この数カ月はジョセフ牧師が牧会しておられます。数カ月後には、私が臨時牧師に就任します。臨時牧師と言うとずいぶん一時的に感じますが、実際、この世のすべては一時のものではないでしょうか。私たちの一生も、永遠に比べれば一時のものであります。

私がまだ幼い少年だったころ、ある過渡期を迎えました。私は当時7歳でした。私たち家族はいつも夏を湖畔の別荘で過ごしました。父は私たち兄弟3人に泳ぎを教えてくださいました。私たちが大きくなるにつれ、父は湖の向こう岸まで泳いで渡ってみなさいと勧めました。まだ7歳だった私には、湖がずいぶん大きく見えて、向こう岸まで泳ぐのはどうも無理なように思えました。けれども、ある日とうとう、私は父にやってみると言いました。少し不安でしたが、父の励ましもあり、湖に飛び込んで泳ぎ始めました。水深50メートルほどの湖で、向こう岸までの距離はおそらくここからセブンイレブンくらいだったでしょう。一緒に泳いでくれる父の隣で、私は一生懸命頑張っ、一時間半ほどで向こう岸に着きました。父は私を抱きしめて、「帰りは歩こう」と言いました。その道すがら父は、生きていく上で不安にしっかり向き合わなければならないことを教えてくださいました。

今日の聖書箇所はヨシュア記1:1-9 です。

1:1 さて、【主】のしもべモーセが死んで後、【主】はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げて仰せられた。1:2 「わたしのしもべモーセは死んだ。今、あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け。1:3 あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおりに、あなたがたに与えている。1:4 あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。1:5 あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。1:6 強くあれ。雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。1:7 ただ強く、雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法を守り行え。これを離れて右にも左にもそれではならない。それは、あなたが行く所ではどこでも、あなたが栄えるためである。1:8 この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることによって繁栄し、また栄えることができるからである。1:9 わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、【主】が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」

この箇所を学んでいくと、イスラエルの民とOICに共通点を見出すことができます。

イスラエルの民は、ヨルダン川を渡ろうとするところです。一方、私たちは過渡期という川を渡ろうとしています。ですので、ここから読む個所でヨルダン川が登場したら、過渡期の川を渡る私たちと比べてみましょう。では、3つの部分に分けて、みことばを見ていきたいと思います。

#1 私たちの現実 (1-2節)

1:1 さて、【主】のしもべモーセが死んで後、【主】はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げて仰せられた。1:2 「わたしのしもべモーセは死んだ。今、あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け。

神は、モーセが死んだ今、ヨシュア、あなたが新しい指導者だ、とヨシュアにおっしゃいます。感謝なことに、ダン牧師はまだ生きていますし、ジョセフ牧師もそこにいます。けれども、イスラエルの民を準備させるよう神がヨシュアにおっしゃったように、私たちにも準備するよう語っ

ておられます。もちろん、不安定な時期になるでしょう。3ヶ月間で牧師が3回も変わるのですから。ヨシアは40年かけて備えました。私に与えられたのは8ヶ月です。私自身にとっての現実
は、人生最大の課題をいただいたということです。けれども、神がアドレナリンをチャージして
くださった私には、この課題に向き合うのも楽しみです。私にとっての現実、こうでもありま
す。私は日本語があまり上手に話せません。私は日本語や英語で皆さんに伝えようとは思って
いません。私は、心で皆さんに伝えようと思います。変化は避けられないものですが、私たち
はともにその変化を乗り越えていきましょう。いろんなことが変わっても、変わらないこともあ
ります。神が御座におられること、天国への道はひとつであること、神のみことばは昨日も今日も
こしえまでも同じであることです。

この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。 (マルコ
13:31)

一方、私たち教会は新しい革袋のようであればなりません。新しい考え方を受け入れる備えが
必要です。OICにとっての現実とは、今新しい時期を迎えているということです。伝道の書3:2
にはこうあります。

天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。 3:2 生まれるのに時があ
り、死ぬのに時がある。

ここには、死ぬのにも生まれるのにも時があるとあります。私たちは新しい時を迎える生まれ
ばかりの教会のようになる必要があります。前進するには、過去にしがみついているはいけま
せん。過渡期の川を渡る私たちOICにとっての現実、変化が伴うということです。ですから、それ
に備えましょう。

#2 私たちの確信 (3-5節)

1:3 あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおりに、あなたがたに
与えている。 1:4 あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人
の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。 1:5 あなたの一生の間、だれひとりとしてあ
なたの前に立ちはだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにい
よう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。

神はヨシアに、約束の地で彼らが行くところはどこでも神が与えると約束なさいました。神が
OICに与えてくださった領土に比べれば、これは小さなものです。私たちは毎週日曜日、世界中か
ら人が訪ねてきてくれます。神は私たちに世界の光になるように召してくださいました。
あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。 (マタイ5:14)

また、私たちは使節でもあります。

こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願してお
られるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れな
さい。 (コリント第二 5:20)

神が私たちから離れず、私たちをお捨てにならないという確信が私たちにはあります。 (ヘブル
13:5b)

主ご自身が、「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」とおっしゃいま
した。 (ヘブル13:5)

私たちに課せられた責任は重大です。神はまったく同じ約束をヨシアになさいました。「わた
しはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」とあるとおりです。私たちは時折、神の約束を
忘れてしまいます。神の約束には次のようなものがあります。詩篇46:1,2,

46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。 46:2 それゆえ、われらは恐れ
ない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。

ピリピ4:19

また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべ
て満たしてくださいます。

哀歌 3:22,23

主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は力強い。

ですから、神が与えてくださる確信を自分のものにするよう努めましょう。そうすれば、過渡期
の川を渡るときも神がともにいてくださり、向こう岸でもともにいてくださると信じることで
きるようになります。

#3 私たちの責任 (6-9節)

1:6 強くあれ。雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。1:7 ただ強く、雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法を守り行え。これを離れて右にも左にもそれてはならない。それは、あなたが行く所ではどこでも、あなたが栄えるためである。1:8 この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることによって繁栄し、また栄えることができるからである。1:9 わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、【主】が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」

神の働きに従事し、好結果を残す秘訣は、神の方法に従うことです。地獄の国歌は「すべて私のやり方で」というものです。神は、私たちが自分なりのやり方で物事をするのを望まれません。ヨシュアにも、前進する前に姿勢を正すよう教えられました。神はヨシュアにどのような姿勢を望まれたのでしょうか。神は、強く雄々しくあれとおっしゃいました。弱く臆病であれとはおっしゃいません。神はヨシュアが信仰に基づいた勇気で満たされることを願っておられました。神は私たちの力の源です。そして、私たちの心のあり方が正しいかどうかをご存知です。神は、聖書を開きなさいとおっしゃいます。聖書は私たちに与えられた唯一の絶対的真理です。詩篇119:105

あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

私がまだクリスチャンになって間もないころ、若者プログラムのリーダーになってみないかと通っていた教会の牧師から言われました。私は聖書の知識があまりないと言っていたので、ずいぶん驚きました。牧師は、聖書のどんなことを知っているかと尋ねました。それで私は、モーセが葦のかごに入っていたこと、ヨナが魚の腹の中にいたこと、イエスが十字架にかかれたことは知っていると言いました。牧師は、とにかくベストを尽くしてみなさいと言いました。私は、自分が知っている以上のことを中高生に教えられませんから、神のみことばを学び始めました。こうして、神が与えてくださった絶対的真理を心から愛するようになりました。皆さんは聖書を抱きしめたことがありますか。

今、スクリーンに出ている箇所は、神のみことばが私の足のともしびだと語ります。神は、そこから離れなければしっかり歩んでいけるとおっしゃいます。過渡期という川を渡るにあたり、私達も姿勢を正し、神のみことばを用いましょう。そうすれば、しっかりと歩んでいけます。この歩みは正しい姿勢に始まり、神のみことばによって力を得ます。神のみことばが私達を励ましてくれるからです。主はすばらしいお方であることを私達には味わい見つめましょう。

【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。(詩篇34:8)

神の教えを守れば、旅路の最後には神がこう言ってくださいます。「よくやった。良い忠実なOICのしもべたちだ。」私たちの責任は、すべてを神の方法で行うことです。イスラエルの民が受けるのは、約束の地でした。私達が受けるのは、神とともに過ごす永遠のときです。そこには、痛みや苦しみ、涙はもうありません。けれども、私達が失敗するのを願うものがあります。サタンは、私達が渡ろうとする過渡期の川に波風を立たせようとします。サタンには策略があることをご存知でしょうか。

悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。(エペソ6:11)

結び

現実とは、今日が3月23日であるということです。私たちがどのような状況にあり、何が起こったのか、私達はよくわかっています。今私達は、過渡期の川岸にいます。私達に与えられた確信は、神がともにいてくださり、しっかりと歩んでいくことを望んでくださっていることです。イスラエルの民はどうなったでしょう。彼らは向こう岸にたどり着きました。私達もそうできます。私達の責任は、強く雄々しくあることです。主なる神が私達とともにいてくださるからです。主のよみがえりの力によって生き、みことばに導かれ、聖霊によって元気を得ましょう。神はともにおられます。また向こう岸で待ってくださっています。ですから、強く雄々しく、神のために進んでいきましょう。